

カンパニュラの夏期の育苗は遮光が有効である

福島県農業総合センター 浜地域研究所

1 部門名

花き-カンパニュラ-育苗

2 担当者

三田村敏正・大越 聡・門田敦生

3 要旨

カンパニュラは高温で発芽率が低下するため、夏期(7~9月)にカンパニュラの育苗を行う場合は、育苗ハウスを遮光すると、発芽率や成苗率が向上する。

(1) 人工気象器を用い 20℃、25℃で育苗を行った場合、いずれの品種も 90%以上の高い発芽率を示したが、30℃ではチャンピオン・パープル以外の品種は発芽率が低下する(図1)。

(2) 育苗ハウスを遮光率 50%の黒遮光ネットで遮光すると、ハウス内温度が低くなり(表1)、発芽率及び成苗率は遮光なしと比べて高くなる(図2, 3)。

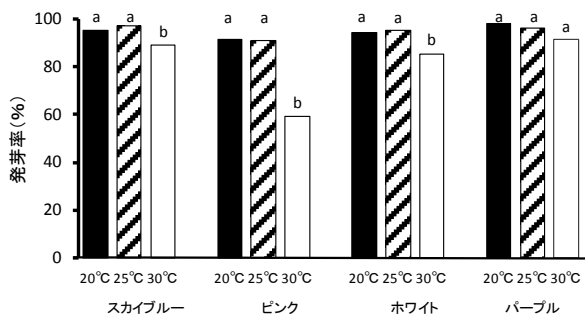


図1 温度の違いがカンパニュラの発芽に及ぼす影響

- 人工気象器 (NKsystem, LPH-241SP, 日本医化器機製作所製)を用い、日長は12L12Dとした。
- 2017年7月18日に播種し、7月31日に発芽の有無を調査。
- 1区36粒3反復。品種はスカイブルー、ピンク、ホワイト、パープルいずれもチャンピオンシリーズ(サカタ)。
- 各品種内の温度間で異符号はFisherの正確確率検定により $p < 0.05$ で有意差あり。

表1 育苗期間中のハウス内温度(℃)

試験区	播種～発芽 (7/13～7/26)		発芽～定植 (7/27～8/13)	
	平均	最高	平均	最高
遮光あり	26.9	33.5	25.4	30.7
遮光なし	28.7	39.3	27.5	37.5

注1) 遮光は遮光率50%の黒遮光ネットを使用
注2) 平均は日平均気温の平均、最高は日最高気温の平均

4 成果を得た課題名

- 研究期間 平成25年度～30年度
- 研究課題名 平成25～29年度:周年安定生産を可能とする花き栽培技術の実証研究
平成30年度:浜通り気象条件下におけるカンパニュラの効率的育苗技術
- 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

なし

(活用した事業名:農林水産省 食料生産地域再生のための先端技術展開事業)

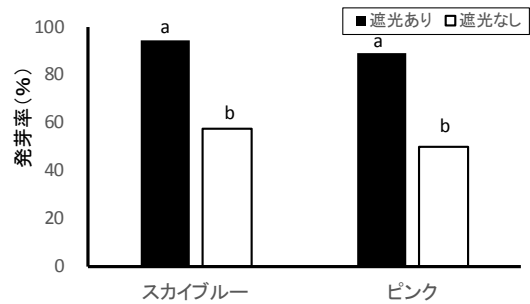


図2 遮光ネットの有無によるカンパニュラの発芽率

注1) 2018年7月13日播種、7月26日調査。1区60粒3反復。
注2) 288穴のセルトレイに培土としてスーパーミックスを使用。1区60粒3反復。
注3) スカイブルーはチャンピオン・スカイブルー、ピンクはチャンピオン・ピンク。
注4) 各品種内の試験区間は、Fisherの正確確率検定により異符号は $P < 0.05$ となり有意差あり。
注5) 遮光ネットは、遮光率50%の黒遮光ネットを使用した。

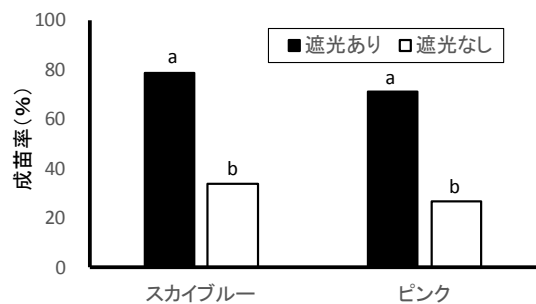


図3 遮光ネットの有無によるカンパニュラの成苗率(対発芽数)

注1) 2018年7月13日播種、8月13日に本葉2対以上を成苗として発芽数に対する成苗率を調査。
注2) 288穴のセルトレイに培土としてスーパーミックスを使用。1区60粒3反復。
注3) スカイブルーはチャンピオン・スカイブルー、ピンクはチャンピオン・ピンク。
注4) 各品種内の試験区間は、Fisherの正確確率検定により異符号は $P < 0.05$ となり有意差あり。
注5) 遮光ネットは、遮光率50%の黒遮光ネットを使用した。